

IV 大学院教育

[概要]

国立歴史民俗博物館には、総合研究大学院大学先端学術先端学術専攻日本歴史研究コースが設置されている。総合研究大学院大学は、全国の大学共同利用機関を基盤機関とする大学院大学であり、日本歴史研究コースは、その先端学術先端学術専攻に属するコースの一つである。3年間の博士課程（後期）のみで、定員は3名である。当コースでは、基盤機関の特性と利点である、最先端の多彩な共同研究が実施されている研究環境と、膨大な資料とすぐれた設備を有する博物館の機能を活用して教育が行われている。

当コースの目的は、広義の日本歴史の分野に関して、広い視野および国際的な通用性を兼ね備え、特定の専門分野について資料に基づいた高度な研究を行える研究者および高い研究能力をもって社会に貢献できる人材を育成することである。そのために、広義の日本歴史およびその隣接分野の研究主題について強い関心を持ち、自主的に持続的な研究活動を通して、自立的な研究者として成長する意欲をもつ学生を求めている。またその研究成果が社会の具体的な場に生かされ、還元されるという意味で、社会人学生の入学も歓迎している。

授業は、資料から歴史像を構築するという基本理念に基づき、大きく「資料研究系」と「社会史研究系」に分けられ、原則として各教員が一つずつを担当している。

このほか、夏期には集中講義を開催している。「資料の調査と活用」、「地域研究の方法」、「博物館コミュニケーション論」の3つの講義と歴博が推進している総合資料学と連動した集中講義「総合資料学」があり、総研大の全学および学外にも開かれた教育の場となっている。なお、集中講義「資料の調査と活用」と「博物館コミュニケーション論」は隔年の開講である。2025年度は、「博物館コミュニケーション論」を3名（うち他コース1名）、「地域研究の方法」を4名（うち他コース2名）が受講した。

博士論文の作成に当たっては、複数の指導教員が指導に当たるほか、全教員が担当する「基礎演習」を年3回開催して、進捗状況を報告させるとともに、プレゼンテーション能力の向上を図っている。また調査研究の場である博物館の現場においても、日常的に指導を行っている。

これまで集中講義「地域研究の方法」の開講と並行して各地で開催してきた「大学院講演会」を、コースの認知度をより高めることを目的に、2019年度より基盤機関である国立歴史民俗博物館で開催している。具体的には、大学院修了生とその指導教員が講演・鼎談を行い、コースで行われている先端的な研究と教育を紹介する場としてきた。今年度は2025年6月14日に「『私の歴史』を考える—個人の記録・個人の史料を読む—」と題した講演会を歴博講堂で開催した。なお、2025年10月19日には対面にて大学院説明会を実施し、歴博において教員6名が対応するとともに、ホームページにも概要を掲載した。2025年度は3名が入学した。2025年4月現在、在学生は12名であり、うち社会人学生は8名である。

日本歴史研究コース コース長 坂本 稔

[2025年度日本歴史研究コース科目一覧]

教育研究指導分野		授業科目	担当教員	教育研究指導分野	授業科目	担当教員
資料研究系	歴史資料研究	古代資料研究		社会史研究系	古代技術史	
		中世資料研究			中世技術史	准教授 村木 二郎
		近世資料研究	准教授 天野 真志		近世技術史	准教授 澤田 和人
		近現代資料研究	教授 樋口 雄彦		生態環境史	教授 松田 睦彦
		金石文・出土文字資料研究	教授 三上 喜孝		民俗環境論	
		考古資料研究	教授 林部 均		村落伝承論	教授 小池 淳一
		民俗誌研究	准教授 青木 隆浩		都市伝承論	准教授 川村 清志
	資料論・展示研究	物質文化資料論	教授 山田 慎也		信仰伝承論	教授 松尾 恒一
		民俗文化資料論	教授 関沢まゆみ		映像記録論	教授 内田 順子
		画像資料論			日欧物質文化交流論	教授 日高 薫
		美術工芸資料論	准教授 鷺頭 桂		日欧政治交渉論	准教授 福岡万里子
		歴史展示研究	准教授 佐川 享平		アジア政治交渉論	教授 高田 貫太
	分析・情報科学	分析調査論	教授 齋藤 努		アジア物質文化交流論	准教授 上野 祥史
		年代資料論	教授 坂本 稔		基礎演習 III (1年生対象)	
		資料保存科学	准教授 小瀬戸恵美		基礎演習 IV (2年生対象)	
		歴史情報科学	教授 鈴木 卓治		特別研究 III	
					特別研究 IV	
社会史研究系	社会論	古代社会論	准教授 中村 耕作	集中講義		
		中世社会論			(資料の調査と活用)	
		近世社会論	准教授 工藤 航平		(地域研究の方法)	
		近現代社会論	教授 大串 潤児		(博物館コミュニケーション論)	
					(総合資料学)	

[2025年度在籍院生研究課題一覧]

入学年度	氏 名	研究課題
2017年度	西原 彰一	琉球/沖縄近現代史における「改姓」「改名」について
2019年度	牧野 由佳	梯子獅子の民俗学的研究
	前山 和喜	日本における黎明期の電子計算機の成立と受容―「計算実践の変容」と「計算機センターの形成」―
2021年度	荒田 敬介	弥生時代の集団関係と武力衝突
	前野 智哉	律令国家の神祇と氏族
	山本 由梨	近代日本の女性と美人画―制作・鑑賞・美容―
2022年度	山田 琴子	技術の組織化から見た東日本の地域社会の形成過程の復元
2023年度	笹倉いる美	網走に移住したウイルタ
2024年度	橋本 侑大	経塚からみた地域社会の考古学的研究
2025年度	園田 美雪	伝統芸能の継承と学校教育に関する民俗学的研究
	武田亜紗美	明治年間の神社統廃合における境内跡地問題について
	Kim Hye In	手工芸に利用される植物の展開過程及び文化的位置に関する韓日比較民俗学的研究

[特別共同利用研究員]

国立歴史民俗博物館では、大学の要請に応じ、当該大学の大学院学生で、文献史学、考古学、民俗学および自然科学を含む関連諸学に関する分野を専攻する者に対し研究指導を行っている。

修了者一覧

氏 名	研 究 課 題	受託研究系・指導教員	委託大学院及び指導教員
馮 天嬌	竜頭鷯首に見る古代中国の日本への文化伝播の研究	民俗研究系 松尾 恒一 教授	國學院大學大学院文学研究科 神道学・宗教学専攻 教授 笹生 衛
徐 梓淇	華僑飲食店の看板研究：飲食と商業における文化的象徴	民俗研究系 松尾 恒一 教授	神奈川大学大学院 歴史民俗資料学研究科 歴史民俗資料学専攻 教授 周 星
DILALA DILIXIATI	民俗芸能伝承団体資料のアーカイブズ化に関する研究	研究部 天野 真志 准教授	学習院大学大学院人文科学研究科 アーカイブズ学専攻 教授 下重 直樹